

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度 相模原市総合計画審議会 第4回進行管理部会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話042-769-8203(直通)				
開催日時		令和元年10月29日(火) 18時00分～19時40分				
開催場所		相模原市役所本庁舎本館2階 第1特別会議室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	11人 (企画政策課長 他10人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会  1 議事  (1) 施策の実施状況に関する建議書(案)について  (2) その他  閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり

( 委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言 )

開会 椎橋企画政策課長

### 1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

( 1 ) 施策の実施状況に関する建議書 ( 案 ) について

【「成果・業績目標の達成度の評価」、「施策の総合評価」に関する意見】

新・相模原市総合計画の計画期間は今年度で終了となる。これまで、2次評価は、全50施策のうち3分の1程度を順次評価しており、同一の施策については3年に1度のサイクルで評価することとなっている。建議書(案)の評価結果として、平成29年度実績と平成30年度実績の評価結果を比較しているが、前年度の評価結果との比較だけではなく、当該施策の前回評価、つまり平成27年度実績の評価結果との比較も行うべきではないか。

確かに、各施策の評価は3年に1度としているので、昨年度と今年度の評価結果の比較は、A、B、Cといった各評価の割合がどのように推移しているかを相対的に表すものであり、実際には違う施策の評価結果を示しているものとなっている。

「2次評価及び改善工程表モニタリング等における意見等」における「(2)総括評価」に、次期総合計画の進行管理においては、個別施策の達成状況の推移を把握すべき旨を追加することとしたい。

A、B、Cといった評価の推移も大事だが、2次評価のたびに同様の指摘事項があるのであれば、その施策は改善が進んでいないということであり、何か根深い課題があるように思う。抜本的な対策を検討するか、あるいは撤退するかといった議論となろうかと思うので、指摘コメントの経年比較も重要である。

本建議書(案)における改善工程表モニタリングの意見でも「改善工程表を抜本的に見直されたい」というものがあるとおり、改善工程表が作成されていても、実際には成果があがっていない施策が多い。改善には、職員の意識改革や発想の転換が必須であり難しい問題であるように思う。指摘コメントの経年比較も、改善につながるデータとして活用できれば大変よいことと思うが、事務局としてはいかがか。

新・相模原市総合計画の評価は、来年度が最終となる。これまでの施策評価の推移と指摘コメントの経年比較を行うことで、明らかになる点もあろうかと思うので、来年度の評価において、事務局から資料をお示しする。資料をご確認いただく中で、全体の振り返りを行っていただき、新・相模原市総合計画の総括評価としてご意見をいただければと思う。

少なくとも、A、B、Cといった施策評価を過去3回分並べてみるだけでも、改善状況等が明らかになるかと思うので、そのようなデータを示していただく中で、来年度の進行管理を行えばよい。例えば、施策28「水源環境の保全・再生」の成果指標では、事業改善を行ったにも関わらず、成果が出ないという状況で、今年度では「根本的な見直しが必要」という意見に繋がっている。このようなことから、経年比較することは有用だと思う。

抜本的な見直しという点に関連して、部局横断的な取組の推進について指摘しているが、組織体制や体質の面で根深い課題があり、個別施策の改善では対応しきれない点もあろうかと思う。施策担当課としては、ガバナンスが変わらなければどうしようもないという考えもあるのではないか。

そのような意見も含め、課題として担当部局から声を上げてもらえれば、審議会としてもサポートできるはずである。

ここで出された意見を取りまとめて、建議書に加えることとしたい。端的に言えば、縦割りの弊害をどう無くしていくかという課題であろう。

もちろん他の要因もあろうかと思うが、縦割りの弊害により、少子化も解消されていないし、農業も観光も変わっていない、新たな産業も創出されておらず、大きく変わったという印象はないのが実情である。

やはり、縦割りの範囲でしか物事が考えられていないように思える。もう少し視野を広げて、施策・事業の立案をしてほしい。

全ての施策の経年変化を把握することで、施策の優先度を判断したり、縦割り行政の改善に向けて、どこに重点を置くべきかという点が見えてくれば、大変有用かと思う。

【「2次評価及び改善工程表モニタリング等における意見等」の「施策別評価」に関する意見】  
(施策1 地域福祉の推進)

で、「福祉圏域を設定し、実質的に横断的連携がとれる支援体制の構築を図りたい」と指摘しているが、どのような圏域設定をするのかを明確にした方がよい。国の流れでいけば『我が事・丸ごと』の地域共生社会づくりの考え方として、小圏域で、本市でいえば22地区のまちづくり区域で、実質的に横断的な連携がとれる支援体制の構築が求められている。

の指摘で、「ボランティア活動希望者ニーズに合った活動先の開拓」とあるが、ボランティア活動希望者だけでなく、支援を求める当事者のニーズに合った活動先の開拓も必要であるので、その旨、追記してほしい。

の指摘で、地域ネットワーク会議について指摘しているが、より実効性を持たせるためには、小圏域単位で仕組みを実施すべきである。その旨、追記してほしい。

(施策9 障害児の支援)

、 の指摘で、「社会モデル」という表現があるが、ここでいう「社会モデル」とはどういったものか。意味するところを具体的に表現した方がよい。

かつては障害について、いわゆる「医学モデル」という、医師の診断に基づき、障害のある人の生き方をどうするかが考えられてきたが、今後は「社会モデル」といって、障害があっても、その人に合った適切なサポートがあれば、地域で暮らし、社会参加できるのだと捉える考え方に主眼を置いて、人生も施策も設計されることが望まれている。就労も障害児の支援においても、そうした「社会モデル」の考え方が広まることで、家族の支援にもつながるとよいと考える。医学的な知見を参考にしつつも、「医学モデル」によって人の人生を規定するのではない「社会モデル」の考え方が広まってほしいとの趣旨である。

(施策10 健康づくりの推進)

で「直営方式を継続するのか、アウトソーシングによる事業効率化を図りつつ新たな事業展開を目指すのかとう方針を明確化」することを指摘しているが、この指摘の趣旨は、新たな需要に応じた事業展開が求められた際に、どれだけ丁寧に素早い対応ができるかという点が重要であり、そのためにはどのような体制であるべきかを考えてほしいという点である。直営方式とアウトソーシングの2者択一を迫るものではないため、表現を修正してほしい。

(施策12 保健衛生体制の充実)

で、「アウトカムではないにも関わらず、目標を下回っているのは問題」という指摘をしているが、アウトカム指標を設定できておらず、目標を下回っている目標は他にもあるので、表現を改めた方がよい。

(施策14 災害対策の推進)

の指摘で、「災害対応改善策の推進は区別対応することも考慮されたい」とあるが、少し強調して、「区別対応の必要性を認識し、検討されたい」と改めてほしい。今般の台風19号の影響で、緑区では大変な災害を被ったところであるが、中央区・南区ではあまり実感がないのが実情である。やはり全市的に統一的な対応ではなく、地域性に則して進めるべきである。

具体的に台風19号に言及して、指摘内容を修正していただきたい。

の指摘で、「災害タイプ毎に具体的な検証を実施されたい」とあるが、「災害タイプ毎」という表現を具体的に、「災害の種別やケース毎に」と改めてほしい。また、の指摘で、「避難を伴うケースを想定した訓練において」とあるが、避難を必要とする場面に限らないことから、「避難や支援を必要とするケース」と改めてほしい。

(施策17 家庭や地域における教育環境の向上)

で児童虐待に関する指摘をしており、「個々の事案に丁寧に対処されたい」とあるが、現在の取組もある程度評価できることから、「より一層」などと加えてほしい。ただし、現在の体制では限界もあろうかと思うので、体制整備を含めてという視点も加えてほしい。例えば、東京都では窓口相談をNPO法人と協力して実施していることもある。措置業務は行政の権限で実施しなければならないが、その他の部分で外部の協力を得ることは可能なので、職員配置の充実が難しくても、体制整備の充実を図るよう工夫すべき点を指摘に加えてほしい。

- で「学校と地域の協働推進事業」について触れているが、次期総合計画では、学校と地域と家庭がパートナーシップを築いていくということが記載されていたので、ここでもパートナーシップという考え方を念頭に置いた表現に改めてほしい。
- で「地域学校協働活動推進員」について指摘しているが、「学校の支援や社会教育について専門的な知識を有する方の育成に努められたい」と具体的な表現に改めてほしい。

( 施策 1 9 生涯スポーツの振興 )

の指摘内容では、学校体育施設開放事業を積極的に進めるべきという誤解を与えかねないので、学校、教員の負担軽減に向けた検討が必要であるということが明確に伝わるよう表現を改めたほうがよい。

( 施策 2 0 文化の振興 )

の指摘で、「美術・芸術関連大学とのヒアリングによる情報が示されていないのは分析不足」としているが、どのような分析において不足があるのかという点を具体的に記載する必要がある。

( 施策 2 4 地球温暖化対策の推進 )

の指摘で、「家庭内で消費するエネルギーを全て家庭内で作り出す住宅にシフトしていくと思われる」としている。将来起こりうることであろうと思うが、近い将来の話ではないと思うので、むしろ再生可能エネルギーを活用した電力の地域内循環という点に主眼を置いた表現に改めた方がよい。

では、「カーシェアの促進を検討されたい」と指摘しているが、シェアサイクルについても言及しておく必要がある。

( 施策 3 2 雇用対策と働きやすい環境の整備 )

の指摘では、「市職員の障害者雇用率の改善」と「市が主体的・積極的に行うべき雇用政策のテーマの明確化」という2つのテーマが1つの指摘事項として統合されてしまっているので、切り分けた方がよい。

障害者雇用について、例えば、発達障害の方は、人とコミュニケーションをとることが難しくとも、一つ一つの作業を細かく、丁寧に行う能力に優れている傾向があり、あるIT企業では、発達障害の方のみ雇用しているとのことである。障害がある方でも、優れた能力を持っている場合があるので、そのような視点を持つことは非常に大事である。

- 障害者雇用率を達成しなければならないという法的な義務はあるものの、それ以上に、一人ひとりの能力に応じた個別具体的な取組を進める必要がある旨を追記してほしい。

( 施策 3 3 地域経済を支える産業基盤の確立 )

では、「職住近接の実現によるワークライフバランスの改善に向けて、市内事業

所での雇用増加に一層取り組まれない」と指摘しているが、昨今の流れを踏まえると、サテライトオフィスやテレワークの促進も重要であり、指摘として加えておく必要がある。

【「2次評価及び改善工程表モニタリング等における意見等」の「総括評価」に関する意見】

成果・業績目標の達成度に関する意見の に「行政活動の多くは外部環境の影響を大きく受けざるを得ないという面を持っている」ということを付記しておくとうい。

施策の総合評価に関する意見の に「地域特性を踏まえた主要な政策に基づく施策・事業が政策運営の基本であるという発想の転換が求められる」となどと補足しておく必要がある。

施策の総合評価に関する意見の において、「多様な資源等を互いに生かし合いながら、施策のめざす姿の実現に向けて事業を推進されたい」と指摘しているが、「多様な資源」を「各部局のスキル・資源」として具体性を持たせた方がよい。

総合戦略の評価についてだが、政策を経営するという観点からすれば、重点プロジェクトをどのように評価していくかを明確にすることが重要である。重点プロジェクトとしたからには、重点的に取り組んだ課題が、全体としてどのように改善されたのかという視点での評価が必要である。例えば、環境の分野では、その分野に係る取組を細かく分類していけば、成果は問いやすくなるが、逆に環境全体としてどう改善が進んでいるかは見えにくくなってしまふ。先に、同一施策の評価の推移を明らかにする必要性が議論されたが、一方で、複数施策を束ねて評価をするという点も必要で、選択と集中をすべき項目が明らかにできることが重要である。

今の意見は、総合戦略の評価における意見として、本建議書にも記載していくこととしたい。

次期総合計画の進行管理の方法においては、今回の審議会でもいただいた意見を踏まえ、検討してまいりたい。

【建議書（案）全体を通しての意見】

各意見、指摘事項について、市民に分かりやすい表現に改められたい。

- 指摘の中に専門用語を用いているところがある。市民に分かりやすい表現とする

よう工夫が必要。

成果・業績目標の達成度に関する意見で、「毎年度実績を捕捉することが可能な指標を設定するよう努められたい」と指摘している。この点に関連して、次期総合計画においても、成果指標が設定されない施策があるので、何らかの指標を設定できないか検討してほしい。やはり事業の達成度や成果を市民に伝えるためには、何らかの指標を設定する必要がある。

建議書の内容や審議会での意見が、今後、どのように市政に反映されていくかが重要であり、審議会としてもしっかり見守っていかなければならない。

- 先ほど、複数施策を束ねて評価をするという点も必要である旨の意見を述べたが、施策の束ね方として、SDGsを用いるということも一案かと思う。

次期総合計画について、各指標の目標値がまだ定まっていないところかと思うが、目標値の設定について、審議会はどのように関わっていくのか。あるいは、行政だけの判断で目標を設定してくのか。

所管部局との調整により、目標値が概ね定まってきたところであり、パブリックコメントは、目標値も記載した形で行っていく予定である。パブリックコメントの実施にあわせて、審議会委員には、目標値の一覧と目標設定の考え方を示してまいりたい。

最終目標の設定の考え方をしっかり示してほしい。

## (2) その他

今後のスケジュール等について、事務局から説明を行った。

本日の議事は終了とする。

閉会 椎橋企画政策課長

以上



## 相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉田 民雄	総合政策プランナー	会長	出
2	金森 剛	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授	副会長	出
3	朝山 あつこ	認定 NPO 法人キーパーソン 21 代表理事		欠
4	隅河内 司	田園調布学園大学人間福祉学部教授		出
5	長野 基	首都大学東京都市環境学部都市政策科学科准教授		出
6	横田 樹広	東京都市大学環境学部環境創生学科准教授		出
7	今岡 英一郎	公募委員		出
8	松平 菜保子	公募委員		出
9	山口 正子	公募委員		出
10	渡邊 健一	公募委員		出